



ふたば
細野 双葉さん

●三好小学校6年

夢のダンサー

私の夢は、テーマパークのダンサーになることです。以前見た踊っている姿が、とてもかっこよく、私もこうなりたいと思ったからです。

私は、2才の時からダンスを習っています。大好きなダンスを職業にすることができたら、とてもうれしいし、やりがいがあると思います。また、ダンスを知らない人には、ダンスのすばらしさも伝えたいです。

今の實力では、まだまだダンサーにはなれないと思うので、今後も努力して夢を実現させたいと思います。



佐野ブランドキャラクター
さのまる

市長からの メッセージ



今年の梅雨は空梅雨かと思えば、夏一番の先月はぐずついた天候が続き、日照不足による農作物への影響が心配されています。

そのような中、先月11日・12日に開催された「さの秀郷まつり」は、降らず照らずの絶好の天候で行うことができました。秀郷まつりは今回で25回目、そして初日に行われた秀郷流流鏝馬は10回目ということもあり、初めて馬に乗り流鏝馬の会場を行進しました。11月に開催される「全国山城サミット in 佐野」のPR用に作成した「龍綺りゅうきの兜」を着用し、武者姿で会場を一周するだけでしたが、馬を走らせながら的を射る倭式騎馬會の皆さんの技量の高さに改めて感服しました。また、2日目のみこし・おはやし巡行にも多くの方に参加・見物していただき、2日間で過去最多の約15万人の人出でした。秀郷まつりに来場された皆さん、ご協力をいただいた皆さんに、心から御礼申し上げます。

さて、7月の「たぬまふるさと祭り」、8月の「秀郷まつり」・「くずう原人まつり」と佐野市の三大夏祭りが終わり、今月は本市のスポーツの祭典である市民体育祭が開催されます。各支部対抗による球技大会、陸上大会が行われますが、参加される選手の皆さんには、各支部の代表として、白熱した競技を繰り広げてもらいたいと思います。

これから台風シーズンが到来します。先月の台風5号では、九州や近畿、北陸地方で記録的な大雨となり、河川の氾濫などによる被害も発生しました。記録的な大雨などの自然災害は、対岸の火事ではなく、いつ佐野市で起こっても不思議ではありません。皆さんも災害への備えとして、事前にハザードマップなどを見ていただき、危険箇所や避難場所などの確認をお願いします。

岡部正英



今回の表紙 今回の表紙 「水難救助訓練」(船津川町) 平成29年7月19日撮影

この訓練は、渡良瀬川上流でゲリラ豪雨が発生し、人が川に流されたことを想定して実施されました。訓練を行った市の消防職員は、万一の事態に備え、手順を確かめながら真剣に取り組んでいました。

本紙4～5ページでは家庭でできる防災について特集しています。ぜひご覧ください。

ともや
江田 朋哉 さん
(赤見町)



○プロフィール
平成5年生まれ。
県立佐野高校、岩手大学を卒業し、
現在は東京藝術大学大学院工芸専攻
に在籍中。



天明釜の技を受け継ぐ

江田朋哉さんは、現在、東京藝術大学大学院で鑄金の勉強しています。天明鑄物師第22代であり、各種の賞を受けている有名な釜師、江田恵さんを父に持つことから、朋哉さんと鑄金・鑄物の出会いは古く、子どもの頃にまさかのぼります。

朋哉さんも平成19年の第4回佐野ルネッサンス鑄金展で奨励賞を、佐野高校在学中には、栃木県高校美術展や全国高等学校総合文化祭などで受賞しています。卒業後は岩手大学に進み、河北工芸展で受賞するなど活躍しました。最近では、今年行われた第46回伝統工芸日本金工展でも入選しています。

今年の4月に人間国宝田村耕一陶芸館で行われた作品展「天明鑄物師 江田家の系譜」では、父親である恵さんとともに作品を展示しました。鑄物について朋哉さんは「高温の金属を扱うのが危険もあり、父の指導は厳しかったです。ただ、緊張して制作に取り組み、張り詰めた感じが好きです」と話してくれました。

作品の形や図柄、使用する金属配分などの苦勞もあるそうです。江田家で



中央の茶釜が朋哉さんの作品

は、砂鉄を「たたら製鉄」で精錬して作った「和銃」で作品を作ります。近年は和銃が貴重となったため、先代から伝わる材料などを使って制作しているそうです。

現在は、東京藝術大学大学院で制作に励みつつ、赤見町の工房でも作品を作っています。来春には、東京藝術大学の卒業・修了作品展に出展する予定です。将来は家を離れての修行を予定しているそうで、この先が楽しみながら若者として応援したいと思いました。

(市民記者 福田満)



きのこの方言はわかりやすく、

■その特徴がよく表れている

キノハツカブリ・クロドンビン(ガ)・シシギノコなど

秋になると、松林や雑木林にはいろいろなきのこが発生します。食用になるものもあれば、ならないものもあります。昔の人は、色や形などがきのこに似ていると、それをきのこの名前(方言)にすることがよくあります。

「くろかわ」というきのこがあります。黒っぽい色をしているのでその名がつけられました。雑木林などに生え、肉が厚くてほろ苦くまるい形をしていて、灰色がだんだん黒ずんだ色に変わります。このきのこには、ナベカムリ・ナベツカブリ・クロドンビン・クロドンビンガ・クロツカワ・クロンボなどいろいろな方言があります。

かつて湯茶を沸かし、お茶を入れるときに、丸い形の土瓶を使用しました。くろかわは、土瓶の色や形に似ていることから、旧葛生地域では昭和の中頃まで、クロドンビン(ガ)とっていました。また、鍋底をひっくり返したようなところから、旧田沼地域では、鍋被が訛ってナベカムリ、ナベツカブリとっていました。身近にあるものにヒントを得て、ユーマアに富んだ方言をつくったものですね。

キノハツカブリというきのこがあります。木の葉に埋もれている様子を方言化したものです。正式名は「くりふうせんたけ」といいます。

また、香りの高いきのこに、皮茸、別名ししたげがあります。黒褐色で大形です。表面には猪のように、角状のささくれがあるので、方言でシシギノコとっています。

(市民記者 森下喜一)

